



答 土地の状況がすぐわかるように一筆ごとのカルテ調書を作成し、その分析をもとに売却、貸付等それぞれの土地の最良の活用方法を明らかにしていきたい。

窓口業務の予約受付について

問 住民票等の電話予約受付、郵送受付やホームページによる予約申請など、市の窓口業務の予約受付に対する考えはどのようか。

答 職員提案制度の中で、住民票等の予約を受けてあらかじめ作成し、昼休みや午後五時以降に交付す

るといふ提案が出され、採用された。現在情報ネットワークセンターと市民課、税務課で検討しており、今年度中に実施したい。

大竹利信（公明党）

住基ネットについて

問 住基ネットの二次稼働が始まったが、セキュリティ対策は万全か。

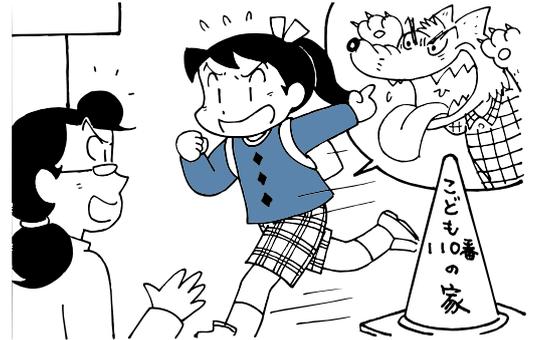
また、独自の多目的サービスを計画している自治体があるが、蒲郡市はどうか。

答 不正行為が発生した場合は通信を遮断する。職員の資質向上も図っている。住基カードは不正利用、偽造の防止対策をしている。

カードを利用する独自のサービスは調査、検討したが、すぐに実行に移すという結論には至らなかった。

こども110番の周知を

問 「110番の家」になっている人の講習会を開いたり、公用車に110番のステッ



カーを貼ってはどうか。

答 講習会は一度警察署と協議したい。ステッカーはよく稼働する公用車への導入を検討したい。

荘田博己（未来の会）

低年齢児保育に積極的な民間活用を

問 蒲郡では0歳から二歳までの低年齢児は、全体の七割しか保育所で受け入れていない。豊川は十五%、豊橋は二〇%である。

受け入れ水準向上のため、民間の力を積極的に活用してはどうか。

答 市が昨年度に低年齢児保育に費やした額は約二億七千六百万円である。現在、民間の力を積極的に借りる手法を検討している。

水道水源基金の有効活用を

問 蒲郡は周辺市町に先駆け、水源保全のために一トナーの基金を導入した。蒲郡はリーダーシップをとるべきだ。基金はバイオマスの研究などに役立てていただきたいがどうか。

答 大学関係者などと協議しながら、有効活用を努めたいと思う。

藤田勝司（市政クラブ）

行政改革の今後の方針は

問 金原市長の就任から四年が経つ。行政改革の実績と今後の方針は。

答 市職員数の削減は目標を上回っている。補助金の削減は目標には及ばないが成果を上げている。行政改革大綱は見直して



いる。事業評価制度は、今年度から三年間で全事業を対象としている。将来は外部評価も検討し、行政改革の一つの柱としたい。

財政の立て直しを

問 国の三位一体改革が進むなか、市財政をどう考えているのか。

答 歳出抑制など健全財政に心がける。社会福祉協議会等に給与として補助金等を支給しているのは、市職員の採用より安く済むからである。民間委託も良いものは積極的に行いたい。